

懐かしい旅 その 7

北インド・花のロータンプスとドラムサラを訪ねて

ハイキング散策の会 渡邊 美穂子 S40文

今回の旅程は

デリー⇒チャンディガール⇒マナリ⇒ロータン・パス峠(トレッキング)⇒ドラムサラ
(ダライ・ラマ14世の亡命政府所在地)⇒パタンコット⇒デリー⇒
アグラ(タージマハール、アグラ城)⇒デリー

2005年にダライ・ラマ14世不在のチベット、ポタラ宮を訪れて以来、1959年中国政府の圧力に耐えかね北インドに亡命政府を樹立したドラムサラの地をどうしても訪れたいという思いに駆られており、2008年7月12日から21日まで10名の仲間ととうとう実現しました。

ロータン・パス峠(標高4000m)

ロータン・パス峠は首都デリーから真北500キロにあるヒマーチャル・プランドゥッシュ州のインドヒマラヤの山麓にありインド最北部のラダックへ向かう唯一の幹線道路沿いにある標高4000メートルの峠です。

憧れの青いケシやさまざまな高山植物が咲き乱れハイキングを楽しみました。



今回も青いケシの花が岩陰に

ロータン・パス峠あたりをトレッキングする予定でしたが、天候が悪く、1000mほど降りて、標高3000m付近を散策、雲の切れ目からヒマラヤの山々が遠望できました



マナリーからダラムサラへの道は起伏に富む山岳地帯で、広がる水田も棚田が多く、美しい田園風景が続く



ドラムサラ（ドライ・ラマ14世の亡命政権のある場所）

マナリから西へ200キロのドラムサラ（標高2000M）では1960年ドライラマ14世のご生母が亡命孤児のため給食所として創立した”チベット子供村”、現在は幼児から小中高一貫全寮制学校を訪れましたが元気な子どもたちの笑顔が印象的でした。



チベット亡命政権の拠点



チベット子供村を訪問 小中高一貫全寮制学校 子供たちの明るい表情と礼儀正しさが印象的



アグラ（デリーの西200Km）

インドで10世紀から300年に亘り繁栄を誇ったイスラム勢力のムガル帝国の中心地 有名なアグラ城とそこにタージマハル廟がある



アグラ城

ムガル帝国の歴代皇帝の中でただ一人「大帝」といわれた第3代皇帝アクバル帝により1565年建設が始められ、その後何代にもわたって建設が続けられ、18世紀初頭までにほぼ全体が築きあげられた

城壁は全長25Km、高さ20m、その内側に宮殿、モスク、バザール、居住区などを備えた見事な城塞



アグラとは「赤い」という意味
参考に絵葉書から引用



タージ・マハル廟

ムガル帝国最盛期の第5代皇帝シャー・ジャハーンが最愛の妃、ムムターズ・マハムの死を悼んで帝国の財力を注ぎ込み、各国から宝石や貴石を取り寄せ、22年間もの歳月を費やして建造。

息子に皇帝の座を追われ、アグラ城内に幽閉されたシャー・ジャハーンは7年間、タージ・マハルを日夜眺め続けてこの世を去った。



この旅は会報No.57に”インド紀行断片”として掲載されています。